

主日礼拝

2023年2月5日（日）

題 「時が来る前に」

テキスト：ルカによる福音書4章1～13節

皆さん、おはようございます。イエスが弟子たちに教えられた「主の祈り」の中に、「わたしたちを誘惑におちいらせず、かえって悪からお救いください。との祈りがあります。

今日の聖書の場面は、イエスがヨルダン川でバプテスマのヨハネから洗礼を受けられた後に荒野でサタン・悪魔に誘惑を受けられた場面です。

イエスが神さまの愛の言葉を伝え、愛の行いをなしていく前にどうしても避けられないことであったようです。

イエスは荒れ野で三つの誘惑を受けられました。

共に確認して行きましょう。

◆誘惑を受ける

1:さて、イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回され、

2:四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。

3:そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」

4:イエスは、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてあるとお答えになった。

サタンの第一の誘惑は、パンに関する事、食に関する事でした。

イエスは神からの聖霊・神の力に満ちて、ヨルダン川からお帰りになったのです。そして、荒れ野の中を“霊”によって引き回されます。荒れ野で四十日間、悪魔から誘惑を受けられたのです。聖書では数字には意味があります。40 という数字は「事が満ちる」ことを意味しているようです。昔イスラエルの民がエジプトで奴隷だった時、苦しみを受ける中、神は指導者モーセによってイスラエルを乳と蜜の流れる地といわれるカナンの地に荒地と砂漠の中を 40 年かけて導き、イスラエルの民に自由と解放を与えられました。40 は、解放される自由になる期間とそれまでの歩みの道を表しているようです。わたしたちそれぞれ自分の人生の歩みに照らしてみるとどうでしょうか？イエスは 40 日間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられたのです。それは人間として当然のことです。イエスは神の独り子ですが、肉体を持った生身の人間としてこ

の世に来られた方です。これを神の独り子の受肉といいます。神の独り子はわたしたちと同じように空腹や悩みも持つ人間として生まれ生きられたのです。

悪魔はイエスを誘惑します。悪魔とかサタンは、人間のことでないのです。サタンは神さまから人間を引き離そうとする力で人間はこのサタンにはかなわないのです。ですから人を見て誰々はサタンであるなどと言ってはならないのです。今の時代もサタンは働いていることとなります。

そこで、**サタンの第一の誘惑**は、3:そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」4:イエスは、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。ユダの荒れ野にはパンの形をした石が多く転がっていたのです。それに目をつけたサタンは、空腹のイエスに、石をパンにかえるようにそそのかしたのです。「神の子であるなら、できるだろう」と言わんばかりです。サタンは私たち人間の目には見えません。自分では気づかない心の暗闇の部分に密かに忍びこんでくるのです。また、そこに巣食っているかのようで隙を見ては表れるのです。

サタンの第一の誘惑は、現代的に言えば、力・能力に対する誘惑でもあるように思えます。「神の子なら、石をパンにできるだろう」と静かに囁くのです。イエスは、サタンの誘惑に対して、「人はパンだけで生きるものではない」と書いてある」(4 節) と、きっぱりとサタンに答えました。この「人はパンだけで生きるものではない」という言葉は、実は聖書の旧約聖書申命記 8 章 3 節(p294)のことばです。イエスはサタンの誘惑に対して、聖書の言葉をもって戦い、拒まれました。

次にサタンの第二の誘惑です。

5:更に、悪魔はイエスを高く引き上げ、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せた。

6:そして悪魔は言った。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。

7:だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」

8:イエスはお答えになった。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」

第一の誘惑に失敗したサタンは、今度はイエスを高く引き揚げて、世界のすべての国々を見せました。そしてイエスに言います。「この国々の一切の権力と繁栄とを与えよう。それはわたしに任されていて、これと思う人に与えることができるからだ。だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」

(6,7 節) これは、支配することに対する誘惑と言って良いでしょう。支配欲はわたしたち人間の心の闇の部分にあるのです。人間を自分の支配下に置きたい。誰よりも地位や権力を持ちたいと思う時もあるかもしれません。ここでサタンが示した条件があります。「7:だから、もしわたしを拝むなら、みんなあなたのものになる。」これです。サタンはイエスに、自分の元にひれ伏せ、そして自分を拝めと命令します。これがサタン、悪魔の本質であり、正体だと思えます。人間は、サタンではなくても、このサタンの囁きに自分でも知らない間に、心を奪われやすいのです。感情は良いものですが、それをコントロールできなくなると、人は残念ながら誰でも弱い者でサタンの誘惑や囁きに負けてしまうのです。

イエスは、この時サタンに『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」(8 節)と答えました。

この言葉は、旧約聖書の申命記 6 章 13 節(p29)のことばです。「主なる神にのみ従う」という意思です。意思から来るイエスの決心だと思います。感情がだめだということではなく、意思と意思から来る決心の大切さを思うのです。

そして、二つの誘惑に打ち勝たれたイエスに対して、最後に**サタンの 3 番目の誘惑が迫って来ます**。聖書の数字 3 は、「極み、極限」を意味します。

9:そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。

10:というのは、**こう書いてあるからだ**。『神はあなたのために天使たちに命じて、／あなたをしっかりと守らせる。』

11:また、／『あなたの足が石に打ち当たることのないように、／天使たちは手であなたを支える。』

サタンはイエスに 2 度も聖書の言葉で誘惑を阻止されたので、最後に聖書の言葉を用いてイエスを誘惑します。サタンは悪賢く、あらゆる手段を用いて人間を誘惑するのです。本来、サタンは天上で神さまに仕えていましたが、地上に堕ちた天使であると伝えられているのです。特に甘い言葉でキリスト者を唆し、イエスや神から引き離そうとたくらんでいるのです。

聖書の言葉を使って、利用してイエスを誘惑します。サタンも聖書のことばを知っているのです。しかし、それは、ただそれは知識としてです。人間には、知識慾があります。もちろん騙されないための知識は必要だと思います。知識がないばかりに人に馬鹿にされたり、悲しい思いをすることもあるでしょう。もっと知識があれば、人から軽く扱われることも少ないのに、と思うこともあるでしょう。しかし、サタンはそれをも利用することがあります。

これに対してイエスは、「あなたの神である主を試してはならない」ときっぱり

りと言われました(12 節)

聖書のことばを利用して、言葉を切り取って使うことは、時に危険なことがあります。純粋な愛からではなく、時に人をしばることでなりかねないことがあるからです。特に、「ここから飛び降りたらどうだ。」などと、人の命に係わることについてはなおさらです。神は命を大切にされる方なのです。なぜなら神は愛を持ってこの世に生きる被造物を創造されたからです。イエスは「あなたの神である主を試してはならない」と言われのです。

イエスは、サタンの3回目の誘惑にも、聖書の言葉を持って打ち勝てました。しかし「聖書に書いてある。」ということではなく、イエスご自身の言葉として、受肉された神の独り子であるイエスの言葉として宣言されたのです。わたしたちも自分の中に宿る聖書の言葉を持ちたいと願います。その言葉が自分をそして人を生かすことばとなるからです。

「13:悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。」とありますが、誘惑は生涯続いたのだと思います。

この時は悪魔、サタンはイエスに勝ち目がないことを思い、イエスを離れました。

「時が来るまで」離れたのです。そして、遂にイエスの十字架に至る時が来たのです。ルカによる福音書 22 章 3 節には「しかし、12 人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った」と記されています。サタンはイエスの最も近くにいた弟子を用いて、また当時、ユダヤ教の権力者たち、人々を用いて、イエスを十字架へと向かわせたのです。

しかし、神の救いの計画はサタンが仕組んだかのような茨の道、十字架の道の中でも進められたという事に驚きと共に、神の偉大さを思わされます。

神は悪の中においても救いの業を行われる方なのです。

教会とイエスを主と信じる私たちは、どうすればサタンの誘惑に打ち勝つことができるのでしょうか。それは自分の力ではできません。

神の子イエスが地上に来てくださった現在、ただただイエスの十字架と復活を信じること。神さまは愛を持って天と地を創造されたこと。神さまが現在の世界を保持されておられることを信じることではないかと思います。

そして、聖書が伝えてくれている、やがていつの日か、神さまが天と地を新たに創り変えられるということを信じるのです。わたしたち、イエスの群れ、神によって招かれた者たちは、互いに覚え、祈りつつ聖書の言葉に聞き、ことばを思い返し学びながら、日々の喜びと苦しみと嘆きも神への賛美に変えて行きたいと願います。神さまへの賛意はサタンに打ち勝つ最良の手段なのです。皆様の上に主の平安を祈ります。共に黙想しましょう。